

第6回次世代リーダー養成プログラム報告書

2018年9月28日

文責:小俣 岳(英語科)

1 研修概要

- 1.1 期間 : 2018年7月29日(日)~8月5日(日)
- 1.2 場所 : ハーバード大学(アメリカ合衆国)
- 1.3 参加人数 : 24名(幕張校)、18名(渋谷校)の合計42名
- 1.4 参加者 :

HAクラス(帰国生クラス)

██████████(1D)、██████████(1E)、██████████(1E)、██████████(1F)、██████████
(1F)、██████████(1F)、██████████(1G)、██████████(2B)

Sクラス(一般生クラス)

██████████(1A)、██████████(1A)、██████████(1B)、██████████(1B)、██████████(1C)
██████████(1C)、██████████(1E)、██████████(1E)、██████████(1F)、██████████(1G)
██████████(1H)、██████████(1H)、██████████(1I)、██████████(1J)
██████████(2A)、██████████(2F)

2 研修日程

2.1 事前研修

- 2018年6月10日(日)9:45~16:30、品川シーズンテラス・カンファレンスAにて
外部講師によるコミュニケーション研修 (3.1参照)
- 2018年7月18日(火)・19日(水)、渋谷教育学園渋谷高等学校にて
外部講師による英語コミュニケーション研修 (3.1参照)

2.2 現地行程(概略)

日付	時間	内容
7/30(月)	終日	移動(飛行機遅延のため、初日プログラム無し)
7/31(火)	AM	NYFA Leadership & Filmmaking Session 1 (3.2参照)
	PM	Harvard Art / Science museum 訪問 (3.3参照)
		Harvard sample lecture GPI US Evening session: English for Academic Purposes (~

		8:30 pm)
8/1(水)	AM	NYFA Leadership & Filmmaking Session 2
	PM	Boston / MIT Visit (3.4 参照) Preparation for SIM session (~9:00 pm)
8/2(木)	AM	NYFA Leadership & Filmmaking Session 3
	PM	Senate Immersion Module (3.5 参照) Reflection / Presentation preparation (~8:30 pm)
8/3(金)	AM	NYFA Leadership & Filmmaking Session 4
	PM	Final presentation (3.6 参照) Japanese guest speaker's session (~8:30 pm) (3.7 参照)
8/4(土)	AM	ボストン空港朝 6:00 出発、帰路へ

2.3 事後研修

2018年9月22日(土) 14:30~17:00、渋谷教育学園幕張高校にて
引率者らとの振り返り (3.8 参照)

3 研修内容

3.1 事前研修

本年も前年度に引き続き、実践コミュニケーショントレーナー・西田弘次氏による研修が行われた。座り方や姿勢、反応の仕方など、普段あまり意識してこなかったことを意識化することができた。こうしたことが相手に与える印象を変えうることも実習を通じて学んでいた。一方英語研修では、東京大学

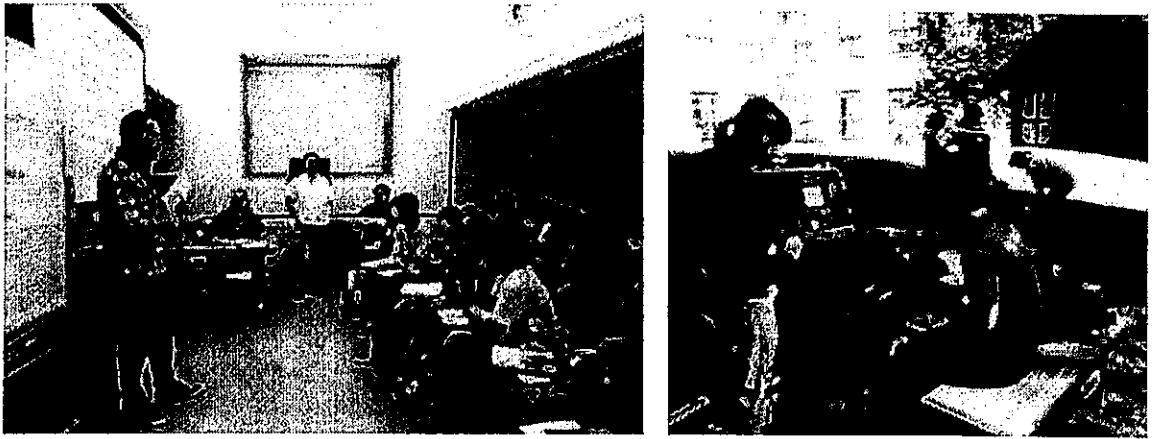


をはじめ日本の各大学に留学中の学生に参加してもらい、リーダーシップについて自分たちなりの考え方を共有するなど、目前に迫る研修のことを念頭に置いた英語による実践的な研修を行った。

3.2 NYFA Leadership and Filmmaking Session

NYFA は、映画監督や制作に携わる人材を養成するため設立された、全米を代表する映

画学校である。同校は毎年夏にハーバード大学に滞在し、様々なセッションを開講している。本年はこれまでとは異なり、映像制作を通じてリーダーシップを学ぶというコンセプトで、講義と実習を組み合わせたセッションが用意された。映像制作に関する講義では、映像制作の過程における人々のかかわり方、そこで必要とされるリーダーシップ、フォロワーシップについて触れられていた。講義を踏まえ、グループに分かれ映像制作を実際に行った。ディレクター、カメラ、演者等各人が役割を担い、脚本、絵コンテ作りから始め、一通りの映像製作技法を学ぶことができた。最終回には制作した映像の試写会が行われ、優秀な作品には賞が贈られた。



3.3 Harvard Sample lecture and museum visit

Vitelio Brustolin 教授による、'A Journey Through Science Special Focus: from Galileo to the Human Genome Project'と題する講義に参加した。科学と技術の関係性、それらが社会に与えるインパクトについての内容だった。文系、理系と分けて論じられがちなたピックを統合的に論じた内容で、大変刺激的だった。ディベートも取り入れられた講義スタイルで、生徒たちもそれぞれ考えを戦わせながら、科学技術と社会の関係性について、身近な例を引き合いに出しながら考え議論できていた。その後、学内の博物館を訪問し、改めてハーバード大学に蓄積された知の豊かさを実感する機会にも恵まれた。科学と美術と、異なる分野でそれぞれ博物館を持っており、2グループに分かれ訪問した。訪問後、それぞれの感想を交換する生徒も多くみられた。



3.4 Boston / MIT Visit

ほぼ唯一、ハーバード大学キャンパスを出た時間であった。きわめて短時間ではあったがボストン市内を観光し、MIT(マサチューセッツ工科大学)を訪問した。MIT の日本人学生がキャンパスを案内してれ、終盤では質疑応答の時間を設けてくれた。研究内容や、大学出願のこと、高校時代にしていたことなど様々な質問に丁寧に答えてもらい、生徒たちは満足気であった。なお、本校から転出し現在ボストン在住の生徒とも再会するという幸運にも恵まれた。



3.5 Senate Immersion Module

アメリカの立法過程を体験できるプログラムであった。各人が州の代表として、利害関係者や各所との調整、交渉を得て法案の合意に至る過程を、議事堂に見立てた建物で体験することができた。人々に選ばれた代表として、重視すべきもの、調整して譲るべきものなど、ディスカッションを通じて交渉をしていた。



3.6 Final Presentation

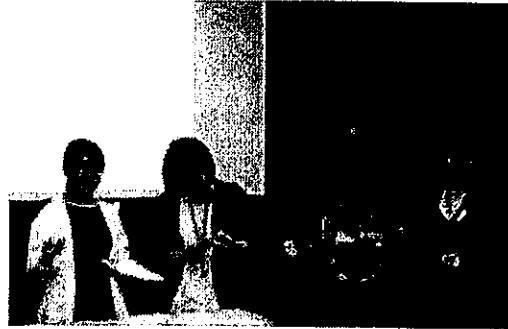
本研修全体を通じて、自分たちが学んだことについて、全員がプレゼンテーションを行った。様々な研修を通じて、自分の中にどのような変化が起こったか、そして今後それをどう活かしたいかといった内



容で、各自が準備していた。発表前夜は準備のため深夜まで起きていた生徒も多かったが、その甲斐あって、全員が素晴らしいプレゼンテーションにまとめていた。Power Pointに頼らず、聞き手と交流するような発表となっていた点も、非常に素晴らしかった。

3.7 Japanese guest speaker's session

大手製薬会社で医薬品開発に従事した後、現在ベンチャー・キャピタリストとしてボストンで活躍中の森文隆氏から、仕事内容やアメリカと日本それぞれの医薬品開発環境の相違等についてプレゼンテーションを頂いた。その後、生徒たちもビジネスプランを考え、ベンチャー・キャピタリスト役の生徒にプレゼンをする、ロールプレイングが行われた。



3.8 事後研修

事後研修では、改めてプログラム全体を振り返りつつ、帰国後早速どのようなアクションを起こしたのか、そしてどのような進路像が見えてきたか、全員が1~2分程度でプレゼンテーションを行った。渋谷生とも久々の再会となる良い機会だった。

4 生徒の声(一部抜粋)

- 「つねになぜかを考える」ことと自己表現に慣れることの大切さを再確認した。自分は何をするのが好きなのか、自分はなぜそう思ったのか、考え慣れていないのは問題だと感じた。
- 動画作りをした時に皆でアイデアを出し合って形にする作業は楽しかったし、皆が一生懸命に案をどんどん出していたから結局誰か一人が仕切っていた訳ではなく、全員が監督のようになっていたのもある意味いい経験だったと思う。
- 議論の場でイタイコトを言えないというのは非常に腹立たしく、歯痒い。自分ならこんな意見も、こんな反論もあるというのにそれを表現できないという理由だけで議論の土俵にさえ立てない。そのためにもこれから語彙力の増強を図り、言いたいことを言えるようになりたい。
- アメリカの大学は試験体制からして学生の将来に最適であるような環境が整えられているため、大学にいる間、本当に自分のやりたいこと・研究したいことに専念できる気がする。ぜひともこのような環境の中で大学生を送りたいと思った。

5 総合所見

- 機材トラブルでプログラムが短縮されてしまった点は残念だった。しかし、その分現地での毎日を大切に過ごそうとする生徒達の姿勢は非常に心強かった。
- 本年度から始まった映像制作のセッションは、生徒一人ひとりを主体的な活動に導くことができる良い手法であると思った。一方で、チームワークについて学ぶ側面は理解できるが、リーダーシップを学ぶ側面についてはやや薄まってしまっている印象も受けた。もう少し、リーダーシップを直接的に学ぶ活動があっても良いと感じる。様々なリーダーシップ像がある中、本学園の生徒がどのようなリーダーシップを身につけて欲しいのか、具体的に明らかにした上で、研修プランに落とし込む必要があるのではないだろうか。
- 立法体験についても、米国の制度の理解、各州の利害やイシューに対する深い理解がないと、議論ができないと感じる。
- 滞在した寮は本年度プログラムから使用され、非常に新しく、快適だった。

6 今後の課題

- 上述の通り、リーダーシップについてより直接的に学べる機会があると良いと感じた。ハーバード大学では、リーダーシップ研究をする組織や研究者が多くいることから、そのような組織や人と連携を通じたプログラム内容の検討ができると尚良いと感じた。
- 今年度は過去最大の参加人数となったが、学習効果や学習効率を考えるともう少し人数を絞ってもよかったかもしれない。選抜試験をするなどして、その段階から研修がはじまっているという雰囲気を作れると良い。